

看護科 3年女子

デートDVは、3組に1組の割合であると聞き、多さに驚きました。言葉の暴力では、高校生の中で普段口にしてしている言葉（「うざい」「きもい」など）も含まれていることを知り、軽く言ったつもりでも、いじめにつながることに異性に言うことで、デートDVにつながるのだと実感しました。普段からそのような言葉を遣わないことを心がけなければと思いました。

デートDVをしている側は、気づかないうちに、言葉による暴力や無視など、ほんの些細なことが、デートDVになるという認識を持つことが大切であると思います。そうすることで、被害が減るのではと思います。

また、もし被害にあってしまったら“1人で悩まず誰かに相談すること”“友人が被害にあっていると気づいたらデートDVであると教えること”が大切だと学びました。

今回のワークショップは、全員がそれぞれの意見を尊重しながら、楽しく参加できました。私自身も他の人の意見を聞いて、それぞれの考えを知ることができよかったですと思っています。デートDV予防を学んで、学んだ私たちが周りへ発信して広めていけたらと思いました。

福祉科 3年女子

「対等な関係であるために」というキーワードが大切だと知りました。家庭科の授業でも、「自立」を学びましたが、お互いに相手を尊重すること、尊重するために相手のことをよく知ること、よく知るためには、日頃から自分の気持ちを伝えることが、大切だと改めて学ぶことができました。仲が良い恋人同士であると、人権がおざなりになり、恋人のどんな対応も許してしまう人もいますが、「親しき仲にも礼儀あり」を忘れてはいけないと思います。

また、暴力という殴る・蹴るといった身体的暴力をする人が多い、しかも男性から女性に危害を与えることが多いように感じました。嫌だと思ったことは、暴力であり、暴力にはサイクルがあり、そのサイクルは段々短くなるということが、今日のワークショップで学んだことです。

寸劇を見て、お互いに伝える努力を忘れてはいけないと感じました。もともと暴力的な人はいますが、DV、デートDVを相手にしている意識がないということを知り、どちらかが我慢している関係は、いつかだめになることを認識し、2人の関係を表面上だけでなく、真に良いものにする努力と行動が大切だと学びました。